

ワイ！ワイ！GIKAI（教育民生常任委員会）

(1) 日時 令和8年2月2日（月） 16：00～

(2) 参加者 市立保々中学校 若手教職員の皆さん 6名
教育民生常任委員会委員

(3) テーマ 「ICTを活用した学習環境について」
「部活動の地域移行・在り方について」
「教員の働く環境・施設設備について」
「その他」

- ・上記テーマに基づいて、委員と教職員で意見交換を実施した。
※各テーマ 15分程度



ワイ！ワイ！GIKAIで出された主な意見

【教育民生常任委員会】

日時：令和8年2月2日(月)

場所：保々中学校

| 保々中学校 若手教員 | 委員 |
|---|---|
| <p>テーマ：ICTを活用した学習環境について</p> <p>【ICTの効果】 授業の質の向上：固定式プロジェクターやデジタル教科書の導入により、視覚的な指導が可能となり、生徒の意欲が向上した。 業務効率化：教師用端末の1台化・クラウド化により、場所を選ばず業務が可能になり負担が軽減した。 生徒支援（早期発見）：シャボテンログ、心の天気を活用により、いじめや生徒の不安を早期に察知し、即日の組織的対応が可能となっている。</p> <p>1 【課題・要望】 写真撮影の困難さ：教員による写真撮影は報道等により厳しい目が向けられているが、視覚的に訴えることができ、写真撮影ができるとよいが、現在のタブレットでの撮影は、機動性に欠ける。教員用スマホ（SKYMENU Mobile等）を導入すれば、撮影の課題と効率化と緊急連絡体制の確保の課題が解消するのではないかと懸念する。 通信・機器の不具合：導入5年目で生徒用端末のバッテリーが劣化している。また、Wi-Fiのトラブルに対応できるよう、ICT支援員の常駐や機器の更新が必要。 緊急連絡手段の欠如：教室に内線電話がなく、緊急時の初動や職員間の連絡に不安がある。</p> | <p>・導入されている「シャボテンログ」と「心の天気」はなどを通じて子供たちの異変を早い段階で察知できることを期待する。 ・端末にうまくアクセスできない生徒に対して、どのような対応ができていますか懸念する。 ・ICTの活用が進むことで、教員と生徒の直接的な関わりが少なくなってしまうのではないかと懸念する。</p> |
| <p>テーマ：部活動の地域移行・在り方について</p> <p>【現状と期待】 選択肢の拡大：小規模校ゆえに校内部活が少ない。（運動部は4種目）地域移行により生徒が希望する競技（サッカー等）ができるようになることは肯定的にとらえている。 教員の負担軽減：専門外の競技を指導する負担が減り、放課後を生徒理解や授業準備に充てられる。</p> <p>1 【課題・懸念】 情報の未達：地域クラブの活動場所や申込方法等の情報が学校・保護者に十分降りてきておらず、教員から保護者に説明できない。 安全確保と移動：生徒が遠方の活動場所へ移動する際の安全性や、送迎により保護者負担がかかりすぎないか懸念している。 運営の不透明さ：大会運営や練習試合の調整主体が学校から離れた際、生徒の活動がどう担保されるか不安が残る。</p> | <p>・地域クラブへの移動手段や安全性の確保、保護者の送迎や当番などの負担について懸念する。 ・既存の地域密着型クラブに他の地域の子が入りやすいか、熱量の差が負担にならないかといった不安に対し、選ぶための十分な情報提供が必要である。また、生徒がどこに参加しどんな効果があったか、学校側へ情報共有がないと意味がないと感じる。 ・学校が部活動から離れることで、スポーツ推薦など生徒の進路指導に支障が出ないか懸念する。</p> |
| <p>テーマ：教員の働く環境・施設設備について</p> <p>【人的支援の必要性】 専門職の拡充：SC（スクールカウンセラー）やSSW、校内ふれあい担当等の配置は効果的だが、日数が不足している。ICTトラブル対応や不登校対応のため、常駐スタッフの増員が必要。 法的サポート：保護者対応等で教員・管理職が疲弊しないよう、スクールロイヤーによる早期介入や相談体制の整備が求められる。 心理的安全性：若手教員が孤立せず、気軽に相談できるメンター機能（退職校長等の活用など）が必要。</p> <p>1 【施設・設備の老朽化】 雨漏り・破損：職員トイレや武道場の天井からの雨漏り、カビの発生など、衛生面・安全面で早急な修繕が必要な箇所がある。</p> | <p>・なり手不足解消のためにも、保護者対応などで教員が孤立しない相談体制や、心理士などの第三者が早期に介入して教員をケア・サポートする仕組みが必要である。 ・退職した校長などを地域に配置し、身近な相談役（サポーター）になってもらうことが重要と考える。また、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）など、教員以外の専門職がもっと潤沢に配置されるよう、今後委員会等で取り扱いたい。 ・採用時に希望する地域に配置されやすくなるなど、通勤負担を減らす柔軟な仕組みがあれば、なり手確保に繋がるのではないかと懸念する。 ・トイレの雨漏りについては、早期に改善するよう教育委員会に伝える。</p> |
| <p>テーマ：小規模校特有の課題</p> <p>【保護者負担の増大】 スケールメリットの欠如：修学旅行や卒業アルバム等において、人数が少ないため一人当たりの単価が高騰している。バス会社等の手配も困難な状況にある。 要望：小規模校の生徒・保護者の負担を軽減するため、一律の補助ではなく、人数規模に応じた予算配分や支援を検討してほしい。</p> <p>1 【業務負担の集中】 一人当たりの校務分掌：教員数が少ないため、一人で複数の分掌（進路、教務、生徒指導等）を兼務せざるを得ず、業務負担が集中している。</p> | <p>・人数割となる卒業アルバム等の費用において、小規模校と大規模校の保護者負担の格差をいかに埋めるかが課題である。 ・費用高騰やバス手配の難しさに対し、旅行が集中する時期（秋など）から時期をずらすことでの費用抑制を提案する。また、プランニングを旅行業者などの専門家に任せることで、教員の業務負担を軽減できるのではないかと懸念する。</p> |